

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年2月14日

**【四半期会計期間】** 第65期第2四半期(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)

**【会社名】** 株式会社壽屋

**【英訳名】** KOTOBUKIYA CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 清水 一行

**【本店の所在の場所】** 東京都立川市緑町4番地5

**【電話番号】** 042 - 522 - 9810 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経理部長 村岡 幸広

**【最寄りの連絡場所】** 東京都立川市緑町4番地5

**【電話番号】** 042 - 522 - 9810 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経理部長 村岡 幸広

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第65期 第2四半期 累計期間	第64期
会計期間		自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日
売上高	(千円)	4,702,384	8,008,911
経常利益	(千円)	356,286	435,648
四半期(当期)純利益	(千円)	242,097	251,307
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	-	-
資本金	(千円)	426,425	150,000
発行済株式総数	(株)	2,698,500	799,000
純資産額	(千円)	2,637,173	1,882,974
総資産額	(千円)	8,162,577	7,452,770
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	94.75	104.84
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	90.29	-
1株当たり配当額	(円)	-	51
自己資本比率	(%)	32.3	25.3
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	243,670	1,051,018
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	400,320	931,451
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	409,430	394,625
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	464,851	218,723

回次		第65期 第2四半期 会計期間
会計期間		自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	45.60

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は第64期第2四半期累計期間については、四半期財務諸表を作成していないため、第64期第2四半期累計期間に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
5. 第64期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、当社株式は第64期においては非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
6. 平成29年7月21日付で普通株式1株につき3株の分割を行っておりますが、第64期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益額を算出しております。
7. 当社は平成29年9月26日付で東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場したため、第65期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新規上場日から当第2四半期会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

なお、当社は前第2四半期累計期間について四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用環境の改善や所得増加に伴う消費の持ち直しにより緩やかな回復基調にあるものの、海外については中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性や金融資本市場の変動の影響等により、依然として不透明な状況が続いております。

当社が属するエンターテインメント業界におきましては、ヘッドマウントディスプレイ機器の普及が進み、映像による仮想現実の没入体験ができるバーチャルリアリティ技術により新たな市場が創出され、期待と注目がされております。

このような環境の下、当社はフィギュア、プラモデル製品等の企画・開発・販売を行う卸売販売、直営店舗・ECサイトによる製品の販売を行う小売販売に取り組んでまいりました。

当社オリジナルコンテンツの「フレームアームズ・ガール」では、平成29年10月に初の単独イベントなる「フレームアームズ・ガールLIVESHOW!若葉女子高文化祭～Autumn～」、平成29年11月にシンガポールにおける「C3アニメフェスティバルアジア2017」等のイベントの開催や、他社のソーシャルゲームや商品とのコラボレーション等を行うことにより主力コンテンツとして確立できるよう取り組んでまいりました。当コンテンツの関連製品が好調に推移し業績に貢献しました。また、当社オリジナルコンテンツ製品については、前事業年度から販売を開始した「メガミデバイス」シリーズ、当事業年度から販売を開始した「ヘキサギア」ともに大きな反響をいただいております。今後も期待できるタイトルに成長しつつあります。他社ライセンスの製品については、ゲームのヒットによりフィギュア「PERSONA5 ARTFX J 主人公 怪盗ver.」、ソーシャルゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」の人気により、「ラバーストラップコレクション 刀剣乱舞-ONLINE-くつろぎver.」、フィギュア「ARTFX J 燭台切光忠」、ソーシャルゲーム「fate/Grand Order」の人気によりフィギュア「ランサー/玉藻の前」等の売上が好調に推移しました。また、当社女性向けブランド「esシリーズ」のイベント「es fest」を平成29年8月にアニメイトと共同開催し盛況な結果となり、イベント関連品である「KING OF PRISM」のグッズ販売が好調に推移いたしました。

海外市場では、平成29年7月に映画「スパイダーマン：ホームカミング」、平成29年11月に「ジャスティス・リーグ」、平成29年12月に「スター・ウォーズ/最後のジェダイ」関連の製品等を販売しました。また、直営店舗及び海外限定で販売した「鋼の錬金術師 ARRTFX J エドワードエルリックLimited Edition」の造形が海外で評価され売上に貢献しました。オリジナルライセンス製品についても「フレームアームズ・ガール」シリーズをはじめアジアを中心に好調に推移しました。

直営店舗、ECサイトによる小売販売につきましては、「フレームアームズ・ガール」シリーズの直営店限定商品やブルーレイディスクが好調に推移し、業績を牽引いたしました。また、直営店舗では平成29年8月に開催したイベントの「テイルズオブ夏祭り2017」、平成29年9月に開催した「PERSONA5 イベント」が盛況な結果となり、各コンテンツの関連商品が業績に貢献しました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は4,702,384千円、営業利益は404,775千円、経常利益は356,286千円、四半期純利益は242,097千円となりました。

## (2)財政状態の分析

当第2四半期会計期間末の総資産は8,162,577千円となり、前事業年度末に比べ709,807千円(9.5%)の増加となりました。

### (流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は4,197,438千円で、前事業年度末に比べ855,768千円(25.6%)増加しております。現金及び預金の増加316,201千円、売掛金の増加291,303千円、商品及び製品の増加164,288千円が主な要因であります。

### (固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は3,965,139千円で、前事業年度末に比べ145,961千円(3.6%)減少しております。建物の減少70,703千円、その他に含まれる工具、器具及び備品の減少79,734千円が主な要因であります。

### (流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は2,121,044千円で、前事業年度末に比べ123,460千円(6.2%)増加しております。短期借入金の増加200,000千円、その他に含まれる1年以内返済長期借入金の減少87,638千円が主な要因であります。

### (固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は3,404,359千円で、前事業年度末に比べ167,852千円(4.7%)減少しております。長期借入金の減少168,623千円、社債の減少10,000千円が主な要因であります。

### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は2,637,173千円で、前事業年度末に比べ754,199千円(40.1%)増加しております。増資により資本金及び資本準備金がそれぞれ276,000千円増加したこと並びに四半期純利益242,097千円を計上したことによる増加があった一方で、配当金の支払いにより40,749千円減少したことが主な要因であります。

## (3)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末と比べ246,128千円増加し、464,851千円となりました

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加291,303千円、たな卸資産の増加188,322千円による減少があった一方で、税引前四半期純利益356,286千円、減価償却費472,060千円による資金の増加を主な要因として、243,670千円の収入となりました。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出317,858千円、無形固定資産の取得による支出3,720千円等による資金の減少を主な要因として、400,320千円の支出となりました。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは社債償還による支出40,000千円、配当金の支払額40,749千円等による資金の減少があった一方で、株式発行による収入の546,440千円による資金の増加を主な要因として409,430千円の収入となりました。

## (4)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5)研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	7,200,000
計	7,200,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,698,500	2,698,500	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	2,698,500	2,698,500		

- (注) 1. ストック・オプションの行使により発行済株式総数が1,500株増加しております。  
2. 「提出日現在発行数」欄には、平成30年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年12月28日 (注)	1,500	2,698,500	425	426,425	425	388,925

(注)ストック・オプションの行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

平成29年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
清水 一行	東京都東大和市	426,600	15.81
株式会社立飛ホールディングス	東京都立川市栄町6-1	300,000	11.12
清水 浩代	東京都東大和市	207,000	7.67
壽屋社員持株会	東京都立川市緑町4番地5	137,000	5.07
多摩信用金庫	東京都立川市曙町2-8-28	120,000	4.44
西武信用金庫	東京都中野区中野2-29-10	120,000	4.44
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASHPB)(常 任代理人 野村證券株式会社)	1 ANGEL LANE, LONDON, EC4R 3AB, UNITED KINGDOM	94,300	3.49
株式会社山梨中央銀行	山梨県甲府市丸の内1-20-8	60,000	2.22
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	60,000	2.22
株式会社商工組合中央金庫	東京都中央区八重洲2-10-17	60,000	2.22
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	60,000	2.22
SHUI LUN LO (常任代理人 大和証 券株式会社)	CLASSICAL GARDENS, TAIPO, HONG, KONG	60,000	2.22
CHUN NAM LAM(常任代理人 大和証 券株式会社)	HOMANTIN, KOWLOON, HONG KONG	60,000	2.22
計	-	1,764,900	65.40

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,697,800	26,978	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	700		
発行済株式総数	2,698,500		
総株主の議決権		26,978	

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員 の 状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成29年7月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

### 4 最初に提出する四半期報告書の記載上の特例

当四半期報告書は、「企業内等開示ガイドライン24の4の7-6」の規定に準じて前年同四半期との対比は行っておりません。

1 【四半期財務諸表】  
(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当第2四半期会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,100,809	1,417,011
売掛金	824,376	1,115,680
商品及び製品	639,333	803,621
未着品	9,565	42,196
仕掛品	285,298	277,877
貯蔵品	4,292	3,117
その他	583,283	633,764
貸倒引当金	105,290	95,830
流動資産合計	3,341,669	4,197,438
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,358,506	2,287,802
土地	708,408	708,408
その他（純額）	581,173	511,479
有形固定資産合計	3,648,087	3,507,689
無形固定資産	136,269	120,671
投資その他の資産	326,743	336,777
固定資産合計	4,111,100	3,965,139
資産合計	7,452,770	8,162,577
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	354,004	428,383
短期借入金	400,000	600,000
未払法人税等	125,649	153,836
賞与引当金	43,458	45,444
ポイント引当金	88,399	120,554
その他	986,072	772,825
流動負債合計	1,997,584	2,121,044
固定負債		
社債	10,000	-
長期借入金	3,254,630	3,086,007
退職給付引当金	76,794	81,884
役員退職慰労引当金	186,500	191,200
資産除去債務	14,951	15,032
その他	29,335	30,235
固定負債合計	3,572,211	3,404,359
負債合計	5,569,795	5,525,403
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	150,000	426,425
資本剰余金	112,500	388,925
利益剰余金	1,620,474	1,821,823
株主資本合計	1,882,974	2,637,173
純資産合計	1,882,974	2,637,173
負債純資産合計	7,452,770	8,162,577

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
売上高	4,702,384
売上原価	2,969,930
売上総利益	1,732,454
販売費及び一般管理費	1,327,679
営業利益	404,775
営業外収益	
受取利息	203
受取手数料	1,055
その他	1,350
営業外収益合計	2,610
営業外費用	
支払利息	23,576
株式公開費用	13,200
株式交付費	6,409
為替差損	3,962
その他	3,950
営業外費用合計	51,098
経常利益	356,286
税引前四半期純利益	356,286
法人税、住民税及び事業税	142,592
法人税等調整額	28,403
法人税等合計	114,188
四半期純利益	242,097

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	356,286
減価償却費	472,060
賞与引当金の増減額(は減少)	1,985
退職給付引当金の増減額(は減少)	5,090
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	4,700
貸倒引当金の増減額(は減少)	9,460
ポイント引当金の増減額(は減少)	32,155
受取利息及び受取配当金	203
支払利息	23,576
為替差損益(は益)	6,652
株式交付費	6,409
売上債権の増減額(は増加)	291,303
たな卸資産の増減額(は増加)	188,322
仕入債務の増減額(は減少)	74,378
その他	114,455
小計	379,549
利息及び配当金の受取額	230
利息の支払額	23,707
法人税等の支払額	112,402
営業活動によるキャッシュ・フロー	243,670
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
定期預金の預入による支出	748,241
定期預金の払戻による収入	678,168
有形固定資産の取得による支出	317,858
無形固定資産の取得による支出	3,720
その他	8,668
投資活動によるキャッシュ・フロー	400,320
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入れによる収入	400,000
短期借入金の返済による支出	200,000
長期借入金の返済による支出	256,261
社債の償還による支出	40,000
株式の発行による収入	546,440
配当金の支払額	40,749
財務活動によるキャッシュ・フロー	409,430
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,652
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	246,128
現金及び現金同等物の期首残高	218,723
現金及び現金同等物の四半期末残高	464,851

## 【注記事項】

## (四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	当事業年度 (自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日)
給与手当	312,284 千円
退職給付費用	12,369 "
賞与引当金繰入額	40,699 "
役員退職慰労引当金繰入額	4,700 "
ポイント引当金繰入額	32,155 "

## (四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日)
現金及び預金	1,417,011千円
預入期間が3か月を超える定期預金	952,159千円
現金及び現金同等物	464,851千円

## (株主資本等関係)

当第2四半期累計期間(自 平成29年7月1日 至 平成29年12月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年9月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	40,749	51	平成29年6月30日	平成29年9月29日

(注)平成29年7月21日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。1株当たり配当額につきましては、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

## 2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成29年9月26日に東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場いたしました。株式上場にあたり、平成29年9月25日を払込期日とする有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)による新株発行300,000株により、資本金及び資本準備金がそれぞれ276,000千円増加しております。またストック・オプションの行使1,500株により資本金及び資本準備金がそれぞれ425千円増加しております。

この結果、当第2四半期会計期間末において資本金が426,425千円、資本剰余金が388,925千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社の報告セグメントはホビー関連品製造販売事業のみの単一であるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第2四半期累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	94円75銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	242,097
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	242,097
普通株式の期中平均株式数(株)	2,555,184
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	90円29銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益調整額(千円)	-
普通株式増加数(株)	126,143
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-

(注) 1. 当社は、平成29年7月21日付で普通株式1株につき普通株式3株の割合で株式分割を行っております。当事業年度の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益額を算定しております。

2. 当社は、平成29年9月26日付で東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場したため、当第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、新規上場日から当第2四半期会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 2月14日

株式会社壽屋  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 真一郎

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大野 祐平

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社壽屋の平成29年7月1日から平成30年6月30日までの第65期事業年度の第2四半期会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成29年7月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社壽屋の平成29年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。